

彙報

東海大学文明学会

第一回シンポジウム

一九八九年五月二十九日、東海大学湘南校舎松前記念館において、第一回シンポジウムが行なわれた。当日のテーマおよび参加者は次のとおりである。

テーマ「これからの文明学科」

パネリスト

杉山文彦（東ア）

松本亮三（西欧）

田崎篤朗（大学院OB）

コメンテーター

原田敏治（日本）

小松久男（西ア）

司会 松本富士男（西ア）

一九八九年度

東海大学文明学会大会

一九八九年十月二十九日、東海大学湘南校舎松前記念館において、第八回大会が行なわれた。先ず総会において会計報告および活動報告が行なわれ、それぞれ承認された。研究発表の後、引き続きシンポジウムが開催された。

研究発表

プラトン「線分の比喩」の理念と五つの予備学問——立体幾何学の挿入をめぐる——

東海大学大学院 博士課程 和泉ちえ

シンポジウム

テーマ「これからの文明学科」

パネリスト

渡瀬信之（南ア）

斎藤 博（西欧）

松本富士男（西欧）

浅見 聡（大学院OB）

コメンテーター

古家信平（日本）

菟原 卓（西ア）

藤盛美郎（東欧）

司会 松本亮三（西欧）

一九八九年度

東海大学文学部文明学科秀作卒論発表会

一九八九年六月二十四日、東海大学湘南校舎松前記念館において、第六回秀作卒論発表会が開催され、一九八八年度に文明学科各課程に提出された卒業論文の中で、最も優秀な論文の発表が行なわれた。

日本課程 梅藤知恵

「高杉晋作の思想——上海航海と防長割拠論——」
湯口慶子

「周の文王、その王たる性格の変遷——西周から春秋戦国における一考察——」

南アジア課程

松崎高志

「中観思想の言語観」

西アジア課程

野崎美樹

「東南アジアへのイスラムの伝播について——その起点と経路を中心に——」

東欧課程

杉崎和美

「第3のローマ、モスクワと永遠のローマ理念」

（当日は発表者の都合により、小船井先生による内容の紹介が行なわれた。）

西欧課程

栗又亜矢子

「ヒトラーと秘密結社」

一九八九年度文明学会例会

四月例会

ブレシオンポジウム「これからの文明学科」

パネリスト 浅見聡（大学院OB） 中川久嗣（大学院OB） 中野雅之（大学院文明研究専攻博士課程）

五月例会

和泉ちえ（大学院文明研究専攻博士課程）

「アリストテレスの学問体系におけるメーカニカの位置」
長 龍子（大学院研究生）

「朝鮮開化期における『実学』の状況——科学教育を中心として」
六月例会

保田道雄（大学院文明研究専攻博士課程）

「第三世代の生命哲学——坂本百大氏による生命哲学のパラダイム・シフト——」

石原綱成（大学院文明研究専攻博士課程）

「アルブレヒト・デューラーの作品における頬杖をつく人物像——その思想的背景と図像学的分析——」
七月例会

七月例会

小川智子（大学院文明研究専攻修士課程）

「イブン・シーナーの『救済の書』における靈魂観について」

中井正樹（大学院文明研究専攻修士課程）

「Eino Leino "Musti" に（つ）」

十二月例会

木村玲子（大学院文明研究専攻修士課程）

「儀礼的移行の時間としてのワイェブーマヤ文明における四と五のシンボリズム」

一九八九年度文明学科卒業論文題目

文明日本課程

飯泉 教子 東京の食事——日常（餐）の食事——

稲葉 洋一 福沢諭吉の経済観

上原 伸行 藤岡地域の農業と関越自動車道

内田 成太 大川周明と社会改造

大倉 章典 室町・安土桃山時代の射術

河原 光世 古事記が語るもの

木村まゆみ 八王子市の盆行事について

桑原 英二 山梨県の方言の状況と特色——年齢と地域差——

小牧 由和 満鉄による満州開発

近藤 雪乃 道祖神信仰の説話と洪水始祖説話の関係——同胞婚説話を中心に——

齊藤 真弓 家訓

柴崎 俊道 坂本龍馬と海援隊

白石 功 教育者松陰——その教育とその成果——

高木 和彦 いわきのジャンガラ

高橋 一三 学生野球の統制と弾圧

田口 大 首都圏の住宅取得事情

立川 晋 都市の発展と海浜利用の変化——東京湾岸開発の歴史——

佃井 一雅 桐生織物における市の興亡

寺下 明子 海外神社の設立について——朝鮮に対する当時の日本政策——

中村 明彦 伝説の中の義経像

根岸 成晃 新聞記事にみられる大正時代のサラリーマン住宅

萩尾 洋平 都市の近代化と雁木通りの変化

原田貴代子 ラフカディオ・ハーンの日帰化における意識

藤澤 隆利 東京の発展と砂利鉄道

藤永 貴子 和様に表される特徴とそこに潜む精神

古谷 裕史 戦後における学校給食の変遷

松崎由起子 盆棚と無縁仏

松田 健 日本における柱考

三上 靖世 古事記・日本書紀——ヤマトタケルをめぐる——

宮田 誠豊 近世中期以降の甲州道中宿駅

森田 千穂 護王姫伝説

柳瀬 和子 昭和史における天皇の存在価値の変遷についての考察

横山 統 村落社会における講組織の役割

和田 裕一 ザンキワラシの形態

熊谷 直大 日本文学の海外輸出

大橋 徳史 明治初期までの燈台の変遷

花澤 重美 山地酪農の定着と畜産開発公社の役割——岩手県葛巻町の事例——

石井 英範 女子の労働条件について

井上 恵子 八世紀の蝦夷地・ロシア問題

岩永 覚 「秦野」の起名因について

上原 文典 養蚕信仰論——皇武神社のオキヌサマを例にして——

薄井 健哉 二・六の市

及川 正子 菅江真澄の見たアイヌの生活

大谷 義郎 稲作と畑作の収穫の特色

金澤由美子 高島嘉右衛門の新企業建設

菅家 礼浩 民俗調査方法の一考察——三ツ作におけるミカリ承伝から——

から——

木崎 順市 吉田松陰の尊王攘夷思想からみた国家

木村 暢宏 年忌供養の施行とその在り方——静岡を中心に——

久我 小波 幕末長州藩における藩政改革

小高 恭子 白と信仰——白という色について——

小林いづみ 与板藩の農業政策と別山村の農業史

今 美央 東山文化にみる日本人の心

後藤みどり 名古屋市における都市緑化の整備について

佐野 信幸 富士宝永噴火と酒匂川大口堤の築堤

清水 貴史 阿字本不生

高橋 明子 ある家の一年間の食生活

高橋 得繁 日本の水産加工について

高橋 真弓 菅生における現代の婚姻・産育儀礼——嫁の視点を中心として——

高山安幾子 鶴見川流域における都市化と治水

田口 光男 死と葬送儀礼

竹内 康浩 酒造の機械化と杜氏——半田市及び寺泊町を事例として——

て——

田中 正好 初期生糸貿易と横浜商人

土屋 敦子 細川忠興夫人・そのキリスト教信仰

富沢 正 蘇我氏と天皇家の血縁関係

西原 裕美 横浜・吉田橋

野上 良太 茨城県大宮町における婚姻習俗の変遷

旗持 博人 富士川流域南部町の林業と労働

早藤 玄 本居宣長と市川匡磨との論争から

針谷孝一郎 明治期における品川遊廓取締りについて

深澤かおり 江戸っ子の広告

細澤 伸幸 綱吉と吉宗の鷹政策について

松島 洋一 山梨県果樹産地の再編方向

三上 純 戦後日本の教育と教師達——理想の教師像を求めて——

南 和志 ミカド問題

村田 陽子 志賀直哉の自我と自然

森田 真也 『民俗資料』の生成——フィールドワーク再考への試論——

湯浅 勝之 空軍独立論

吉村 彰洋 若者組の崩壊

河内 潤 川崎・鶴見地区における工業基盤整備——大正期を中心に——

百瀬 太 江戸大相撲の形成と確立

甲斐真二郎 妖怪ザンキワラン

齋藤 俊洋 清水市内における婚姻形態——明治時代から大正時代

て——

て——

まで——

姉帯 充志 近世の陸中における備荒の諸相

杉本憲太郎 熊本城に関する考察

文明東アジア課程

阿部 修 宝船復元

池田 佳則 深川経済特区の投資環境について

伊勢 孝子 抗日民俗統一戦線形成過程における中国共産党の政

策転換

井上 一 秀峰開拓村の展開

岩崎まゆみ 康熙帝とキリスト教

岩谷貴左子 古代中国人の死生観について——馬王堆一号漢墓の帛

画を見て——

浦西 達久 満州移民の論理——加藤完治の侵略的土地解放論——

大塚 里香 楼蘭国から鄯善国へ——漢と匈奴に挟まれて——

大友 紫 荘子の思想の特徴について

表田乃倫子 長征途中における張國燾・毛沢東対立——張國燾「我

的回憶」より——

加藤 尚子 中国女性の化粧の歴史

木下 尚 アヘン貿易初期のアヘン問題

木村 博子 中国女性と家事労働問題

倉橋麻希子 国共合作の崩壊要因——陳独秀は国共合作をどのように

みていたか——

小山 崇 康有為の立憲君主制について——康有為の百日維新時

期の政治改革の主張に関する一考察——

坂井 泰明 太平天国における洪秀全と李秀成の考え方について

——李秀成供状による——

島田 利香 漢高祖の長冠についての考察

清水 大介 雨森芳洲の朝鮮外交観——「交隣提議」を中心に——

清水 秀雄 蘆溝橋事件現地解決方法の原点

鈴木 英之 朝鮮女性と従軍慰安婦

鈴木 洋一 蜀のおかれた状況——中原文化から楚文化へ——

関 聰浩 西安事変における「張学良陪送蔣介石回宁」につい

て

高橋 睦 七三一部隊が行った生体実験についての一考察

寺尾 洋祐 南京虐殺のこれまでの評価について

樋口 祐一 第五次「囲剿」戦にみる南京国民政府の軍事政策

——蔣介石の軍事指導のゆくえ——

平元 直子 両漢における秦人の評価の変遷——李斯・趙高・二世

皇帝について——

平山 博志 太平天国以前の洪秀全の革命思想についての一考察

松尾真理子 神僊思想の発生と展開——秦漢期を中心として——

宮川 祐一 暗殺行為に於ける安重根の意志・思想

宮田 雅史 大連取引所建値問題と朝鮮銀行の敗北

向笠 蘭里 清末の西太后と李蓮英

村野加代子 満州国の建国理念——共和制から帝制への移行——

柳川 愉子 後漢時代の西域経営について

山崎 英俊 遇羅克による「血統主義批判」

山下 勇雄 魯迅の女性観——祖母・母・乳母を中心として——

山添 恭寛 東亜連盟論の本質

山中 俊秀 三・一運動における運動形態

山中 恭 一人っ子政策について

吉川 敬子 五行思想における五色について

吉永 隆史 川喜多長政の中国観——その思想形成と中華電影——

伊藤 智史 台湾プロゴルフ界の強さの秘密と今後の目標

金 明和 戦後直後の在日朝鮮民族教育運動——「四・二四」教育闘争を中心に——

高山 善広 中越紛争に見る中国・ベトナム関係

川中 啓展 国営企業研究から一考察する、日中合弁事業の展望

貞松謙一郎 台湾の国語についての一考察

寺内 章 証言で考察する南京大虐殺

伊東 孝哲 大日向村にみる満州分村移民

小島 歩 一八四〇年代における広東民衆の抗日闘争

塩月 格 前漢の国内政策と外交政策

館内 元和 五・四運動——山東問題における日本と中国

町田 敦 旧日本帝国主義下の在大阪朝鮮人世帯における持家と借家における比較分析による一考察

渡部 勉 日中航空協定に於ける日台航空路線問題——日本の対台湾外交交渉の一考察——

石川 千秋 中国に於ける「学生運動」と日本の現状と東海大学

文明南アジア課程

飯塚 淳三 外国人労働者問題

市川 美志 インドにおけるヴェジタリアンの伝統

伊藤 弘人 バガット・シングの中央立法議会内爆弾投擲事件について

稲垣 信広 インドにおける人口増加問題

稲村 勝敏 シク教のヒンドゥー化

岩崎 博美 チャラカ・サンヒターにおけるアーユル・ヴェーダ

岡本 知子 インド占星術における二隕星

片倉 彰一 ムガル帝国の崩壊要因

蔵元 宏哉 ホッケーにおけるインド・パキスタン対立

黒光 昭博 インドの財閥

佐藤 雅洋 バガヴァッド・ギーターに見る精神分裂病とその可能性

鈴木 美和 インドにおけるサティの歴史

田端 桂子 ミティラー画——女性の手による民族芸術の変換——

富樫 洋 楽器に見るインド音楽の流れ

中野まど佳 インドにおける額上のマークについて

島山 正直 タゴール『文明の危機』論

東田 聡 英・蘭東インド会社の経営

広瀬 圭一 緑の革命がインド社会に及ぼした影響

藤本 恵子 家庭人としてのインディラ・ガンディー——幸福を

求めながら、それを築き得なかった理由——

前田ひろみ 小説『家と世界』と映画『家と世界』との関係

松場みどり インド・イスラム建築美術の歴史の変容——壁面装

飾の背景——

村上和佳子 絵画に見るバリ世界——現代文明に対する考察につな

て——

山田 能之 中印国境紛争の軍事的分析

谷口 洋平 ヨーガにおける超自然力とその精神作用

真中 和行 インド社会における女性開放運動の展開

佐瀬 智子 禅——体験と心理学的測定にもとづいて——

渡邊 学 ヒンドゥー婚姻法の成立とその改正

鈴木 利明 カウテイリヤールタシャーストラにおける国防と

外交政策

文明西アジア課程

和泉 志都 イスタンブルのカバル・チャルシユ

老門 未紀 ヨルダンの一農村における親族組織

大島 豊 一八五六年勅令とそれによるオスマン帝国社会の反

響

大野ルリ子 中世イスラーム世界における商業活動——十一十三

世紀のエジプトを中心に——

川又 直美 Ali-Dashit の Sadi 論

椎野 裕子 古代エジプトの衣装——古王国時代から新王国時代まで

の変遷——

塩原 伸子 古代エジプト、一八王朝時代の Tany について

高野 知子 ペトルスが見たイスラム

高橋美奈子 古代エジプトにおけるパン

新妻 祐介 カデシユの戦いの歴史的意義

長谷川文洋 中部イランにおける水の分配

原野 砂里 アリー・シャリーアティ博士のイスラム解釈

山崎 有子 湾岸諸国におけるエジプト人労働力問題

山本 淑史 イブラヒム・ミュテフェツリカによるオスマン語印

刷機導入の意義

菊谷 和弘 インティファーダ

熊岡 政道 イスラム世界と第一回十字軍

文明東欧課程

阿毛 由香 ペレストロイカと米ソ関係

石井 隆雄 日露戦争と一九〇五年革命——明石元二郎の活動につ

いて——

井部 昌彦 リトワニアの民族問題——民族意識と独立に対する行

動——

今村 譲 バルカン言語圏

上野 理恵 M・A・ヴルーベリ

大賀 哲史 ペレストロイカとその「新しい思考」

緒方 善哉 タルコフスキーの遺産

小野 敦子 ロシアにおける農奴解放とその影響について

黒瀬 亮子 ロシア正教会とラスプーチン

小林 孝行 ペレストロイカと対西側戦略

後藤 友重 エネルギーと文明——エネルギー変換と社会変化——

佐藤 淳 ポーランドの民族問題——大戦間までのユダヤ人問題を軸に——

佐藤 卓夫 外から見たペレストロイカ——アンケートによる意識調査——

篠原みゆき レフ・イリイチ・メーチニコフの日本観の背景にあるもの

清水 雅也 ソビエトの民族問題——特にユダヤ人について——

杉山 勝也 オスマン・トルコ帝国とセルビアの独立

立田真奈美 ゲルツェンのみたロシアと西欧——ロシア社会主義に至るまで——

田中 雅人 社会主義論とペレストロイカ——社会主義再生への道——

玉井千恵子 一九七〇年代におけるポーランド経済——経済の激変とキエルク政権——

千葉 浩哉 ソ連の教育

佃 秀樹 チェコ独立運動——マサリクの海外に於ける活動——

遠山 功 ポーランド「連帯」——誕生の要因——

中島ゆかり スコモロフ——ロシアの大道芸人——

丹羽 恒雄 農業にみるソ連経済の推移とゴルバチョフの改革

浜野 恒治 ペレストロイカと軍縮問題

原 淨 ドヴォルジャーク——生涯と民族性——

古川 理恵 急進主義運動とカレル・チャペックの批判

松崎 知子 ユーゴスラビア連邦共和国の歴史的背景について

松下久美子 ロシアにおけるキリスト教

松本 陽子 タルコフスキー論

宮崎 剛 シャガールとロシア革命

矢幡とし江 啓蒙専制君主エカテリーナ女帝の生涯

山岡 正和 ドストエフスキーの仮面性

吉村 文雄 ペレストロイカとスターリニズム

平澤 哲雄 ヤロスラフ・ハシエフの文学精神

伊藤雄一郎 ペレストロイカによるソ連国民の意識改革——動機づけについて——

三尾 勝吾 ポーランド映画の一考察——アンジェイ・ワイダの映画——

佐藤 圭一 戦争と戦争観——日露戦争を通して——

下沢 剛 アンジェイ・ワイダ——三部作における背景とメッセージ——

関根富士美 スラヴ神話と民間信仰——キリスト教以前のスラヴ族の信仰——

狩野 秀雄 トルストイについて——思想と宗教観——

文明西欧課程

- 池田由美子 変わりゆく福祉国家・イギリス
石川 未紀 ルーヴルの歴史と未来——フランス人はルーヴルをいか
に生かしているか
出沼久美子 知能検査の展開における個性と序列
大沢 澄子 グズルーンとクリームヒルト——古ゲルマン伝承の女
性についての考察
大森洋次郎 日本とヨーロッパの精神構造の比較
岡野 充明 Pathographieの目的と意義についての考察
小河原淳子 アルゴ座におけるアルゴナウティカとノアの箱船と
の比較
金井 美江 ミケランジェロの作品におけるキリスト教と異教の
影響について
河崎 盛二 観光地ベネチアの姿とその歴史
久保田尚美 『イリアス』における神々
熊谷真木子 ソクラテス
児玉 一郎 日本人は「空中死神」の夢を見るか？
齋藤 清秀 都市における遊びの必要性とその障害について
佐藤 知子 パラ窓と曼荼羅の比較
佐藤 恵 神話と風土
鈴木 規正 ワインと宗教
田中 明 ヒトラーの統率力について

土居千佐子 情報空間としての万国博覧会

中田 裕子 一八世紀末にみられる服装革命について

中山 崇 『若きウェルテルの悩み』におけるゲーテの精神的
基盤

新田 朗子 アンデスの環境利用

早川 学 ナポリターナとベル・カント唱法

原 豊彦 ブレーズ・パスカルにおける回心の意義

原地 博久 世界のポルドーワイン

平野 緑 フランス文学に於ける「エスプリ・クルトワ」「エ
スプリ・ゴロワ」について

藤森壮一郎 ソビエトのスポーツ——制度的優位性と問題点

増子 恵利 イギリスの紅茶

松本 圭史 日英比較ゴルフ論

宮内 理英 シュエイクスピアにおける女性像

意義 時代背景と今日の

若杉 和次 一九世紀フランス農業における一考察

明石 現 ルター派プロテスタントリズムにおけるJ・S・バ
ッハの世俗音楽

池田 洋子 社会の中の夢について

一條 佳子 フランス革命と祭り

伊藤志津子 アール・ヌーヴォー

白井 常夫 アインシュタインと原爆——成立しない等式アインシ
ユタイン』原爆

小原 正幹 余暇について

金子 光弘 酸性雨について

川角 勝則 楽劇『ニーベルングの指輪』にみられる「悲劇性」について

木村 昭二 モータースポーツに関する日本とヨーロッパの違い

河野佐智子 キリスト教におけるマリア崇敬の意義——日本の観音信仰と比較して

坂村 和吉 パルテノン神殿の彫刻

佐藤 智子 宗教的集団アーミッシュ Amish

澤田美智子 様式家具の変遷

渋谷 祐一 たかが遊園地、されど遊園地——夢と魔法の王国にみるソフト化社会のレジャーランド

田中千抄子 香水革命——近世ヨーロッパにおける動物性香料への変遷の謎

中村 往代 魔女

西岡 仁志 デカルトの生き方とその時代

浜田 智与 火の起源の神話

林 由紀 信仰に生きる人々——サンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼

原 康人 メキシコ神話についての考察

飛田 真孝 中世イタリア都市における公共空間と私有空間の配置とその意味

藤掛 智子 コンゴの独立

松田喜一郎 トインビーの都市論

宮尾 和彦 ミヒャエル・エンデ

森 早苗 ネオプラトニズムとポッティチェリの『春』について

山田 大作 シリコンバレーの地下水汚染にみる環境問題

行成 政彦 『オデュッセイア』における女性達

小澤 淳 日本観を見る
久保 浩二 日本で最初のアメリカ移民

大学院文明研究専攻修士論文

陸路 美礼 呪術師——北欧における呪術師との比較

木村 玲子 ワイエブ——年の更新儀礼にみるマヤ人の時間意識

中村 直子 アリストテレスの神について——目的因としての神